

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学内外他研究科、研究所との連携	→学内外他研究科とのゼミ交流活動の実施、共同ワークショップ、共同シンポジウム企画の実施/参加回数	A	B	B	B	A
2. 海外の研究機関との連携	→若手研究者海外派遣制度などを利用した大学院生の海外研究拠点への派遣回数・人数	A	B	B	B	B
3. 大学院生の評価、外部委員の評価を取りまとめる大学院教育アセスメント部会などの設置・審議	→大学院教育アセスメント部会の設置の有無および審議回数	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 全学組織である先端社会研究所主催のResearchコンペと連携し、2013年度には、研究成果の報告を公開で行なう会を1回、研究計画のプレゼンテーションを公開で行なう会を1回、それぞれ実施した。また、先端社会研究所による大学院教育支援事業のもと、大学院生主体による公開形式での研究会を開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 先端社会研究所との連携をとおして、本研究科大学院生が他研究科教員からのコメントを得たり、他研究科大学院生との研究交流が持続的に行なわれるなど、研究科の枠に縛られない大学院教育が実現した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 先端社会研究所と社会学研究科との間での大学院生支援にかかわるGSSP(Graduate Student Support Program 大学院生サポートプログラム)をとおして、先端社会研究所との連携をさらに深める。	☆
		その他	
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外研究助成金制度や先端社会研究所の大学院教育支援事業により、2009年度以降大学院生をオーストラリア国立大学のJapanese Studies Graduate Summer Schoolに派遣し、英語での研究発表を実施した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 参加した大学院生は、いずれも海外学会での研究発表を実現し、それぞれの研究者としてのキャリアにとって有益な経験となった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か GSSP事業の展開の中で、大学院生の海外発表への助言、支援をさらに充実させる。2014年度は、オーストラリア派遣が、5人内定している。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院生による授業評価を実施し、その結果をもとに大学院教育アセスメント部会を2回開催した。これにより、改善策等についての検討を行なった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院の授業や研究環境についての大学院生の状況を把握するとともに、今後の課題等について大学院生と教員との間で、問題意識の共有がはかられた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 授業評価とそれにもとづく大学院教育アセスメント部会を継続的に実施してゆく。	☆
		その他	
			☆
備考			☆